

令和6年度京田辺市大学連携地域貢献研究事業実績報告書

(市ホームページ掲載用)

●研究課題名 こども食堂を拠点としたインクルーシブ・コミュニティの創造

●研究者名 同志社女子大学現代社会学部現代こども学科 准教授 新谷龍太郎

●研究期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日

●研究の概要（背景・目的等）

京田辺市内のこども食堂を、こども、大学生、高齢者の交流拠点とすると共に、障がいのあるこどもや学校に行きづらいこども、外国につながるのあるこどもなど様々な背景を持つこどもの居場所とする。また、こども食堂を拠点として、支援が必要な保護者などへのアウトリーチにつなげる。

●研究の内容（方法・経過等）

市内こども食堂関係者へのインタビュー調査を行い、こども食堂運営の課題を明らかにする。また、多世代交流拠点となるこども食堂を実際に運営することで、こども食堂運営の課題と解決方法をアクション・リサーチにより明らかにする。こども食堂関係者が集まり話し合い、課題を共有し改善策を討議する場を作ることで、具体的な解決を図るアクション・ネットワークづくりを行う。

●これまで得られた研究の成果

本研究を進めることで得られた成果は大きく3つある。一つは、こども食堂関係者へのインタビュー調査活動を通じて、市内のみならず、他市のこども食堂関係者や社会福祉協議会、こども食堂を支援する企業や施設など様々なつながりが新たに生まれたことである。二つ目は、京田辺市内に多世代交流拠点となるこども食堂を作ることができたことである。三つ目は、市内のこども食堂の運営支援や、こども食堂に関わる学生の支援を行うことで、同志社大学や同志社女子大学の学生同士のつながりや、学生と企業や団体とのつながりが生まれたことである。

●具体的データ等

市内のこども食堂ネットワーク会議を、8月10日、3月25日の2回実施した。こども食

堂の訪問調査を 11 回行い、同志社女子大学の学生によるフィールドワークを 7 回実施した。自身のゼミにより 12 回のこども食堂を実施し、のべ 105 人の親子が参加した。また、他のこども食堂運営に関わる学生を補助し、2024 年 12 月から 2025 年 2 月の 3 ヶ月で 199 食の提供を支援した。こども食堂支援団体を 3 団体開拓した。学生ボランティアのべ 26 人の活動参加を支援した。物価高騰の中でのこども食堂運営を支援するため、2024 年 12 月及び 2025 年 3 月の 2 回に分けて、こども食堂・食料支援団体 7 ヶ所に対して、米 120 キロ、缶詰 18 缶などの食支援を行なった。食材管理アプリの開発を通じて、同志社大学の学生 2 名と物流企業 1 社をつなげた。

●研究を通じての自己評価

研究目的であった、こども、大学生、高齢者の多世代交流拠点の足場を作ることができたことや、調査活動を通じて、こども食堂関係者と課題意識を共有し、安定的な運営に向けた具体的な改善案を検討するネットワークを作ることができた点は本研究の大きな成果である。また、活動を通じて学生同士のつながりが生まれたほか、学生とこども食堂に関係する団体や企業との連携も進み、研究の社会的な意義が高まった。

一方で、こども食堂を拠点としたアウトリーチについては、本年度で着手することができなかった。また、学校に行きづらいこどもや、障がいのあるこども、外国につながるこどもの居場所づくりについて、さらに取り組む必要がある。そのために、学校や行政、福祉との連携がより求められる。また、食材管理アプリの開発については技術面、備品やシステム使用料などの課題があり本事業年度中に完成することができなかった。

●その他

こども食堂を安定的に運営するためには、会場使用料や賃料の補助や、学生ボランティア確保のための謝金が必要である。また、こども食堂のスタートアップにあたっては、認知向上のための行政による広報誌の掲載や、学校・福祉施設などへの案内などの支援が必要である。

●研究活動中の写真

